

<今回>312回目 2022年2月25(金)15時~18時 第8会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p385、泰山の招集 より

<前回>311回目(22-2-4)出席者 7名

資料(22-2-4-1)前回のまとめ(清水)

- 一2) 正木氏のセミナー報告まとめ(榛葉)
- 一3) 比恵・那珂遺跡報告要旨(久住猛男、福岡市埋蔵文化財課) 榛葉まとめ8p
- 一4) 仮説、比恵那珂遺跡は不彌国か(大下) 3p 榛葉まとめr

A 報告 第3回目のコロナワクチンについて情報交換をした。オミクロン株の強烈な感染力に、老人は致命傷を受ける恐れが出てきた。死者数が増えているので原因別の分析が必要ですが人数だけで、来ていません。ワクチン未接種の人が何人、なん%、持病のある人が何人、なん%、2年間の推移とか、データは何かしらあると思います。幼児も大事ですが死亡には至っていません。

B 榛葉氏より資料2, 3, 4の報告がされた。2)は昨年の八王子セミナー時の報告要旨である。2018・12月の大阪歴博での公式発表である。発掘状況の公式記録は不明だが終戦直後からの発掘遺品は膨大で、それを埋蔵文化財課として近年の知見をもとに分析し、発表に至ったものという。今後の考古学会の反応が期待される。3)は久住氏のシンポジウム「古墳時における都市化の実証的研究」の資料集より、榛葉氏が要旨をまとめたものである。8p目に遺跡の全体図が示されている。比恵地区は1952年の森貞次郎の調査報告が残っている。那珂地区は那珂八幡古墳の裾で銅戈鋳型が採集され176次の調査を数えている。①倉庫群の存在、②「市」の存在③船着き場の発見の予想④分銅である石権、半島系の薄型土器、鉄素材、辰砂の出土⑤長距離交易を予想される各地の土器、石権、鉄素材、鍛冶遺構よりは鉄素材交易品の方が多い。⑥木材の杉は当時北九州では自生していないはずが大量に使われている。山陰地方の杉材が使われていたとすれば更に大きな交易圏を想定しなくてはならない。⑦石権、硯の存在はメインストリート沿いで出土している。⑧木の櫓の出土、海人の一部上位階層が倉庫群領域を管理する、外交を担当することを予想するなど、古田説の土台になった魏志倭人伝の世界が展開されているかの様相を得る。一4)横長資料は大下氏の論文であるが、遺跡の位置関係がわかりやすく、甕棺の分布と共に持論を展開している。

C 読書 p385 4行目これに対し より

- 1) 九州倭国側も近畿天皇家と同じく使節団を送り、学問僧を送っていた。と想定すると、日本書紀で確かめられない不明の学問僧や学生の存在不審がなくなる。
- 2) 推古紀の例では推古16年(608年相当)9月小野妹子と雄成と共に4人の学生と学問僧を送った。
学生)倭漢直福因、奈羅訳語恵明、高向漢人玄理、新漢人大罔
学問僧)新漢人日文(僧旻)、南瀕漢人請安(中大兄や蘇我入鹿の先生)、志賀漢人慧隱、新漢人広濟
- 3) 前年607年多利思北孤は沙門数十人を派遣している。(倭国伝)。博得の言と博得の書の違いにも注意を払うべきか。高山氏はこれら、日本書紀と隋書倭国伝の中の行方不明者を追跡調査をしている。

2022-3-4(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

一25(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室